



大黒湯 (東京・千住)

前回の銭湯特集から一年。再度、銭湯界の鬼才・下北沢つかさ氏ともりたゆたか氏に集まってもらい、特集テーマ「銭湯放浪記」に沿って、日本全国の銭湯で番付表をつくることにしました——が、話はあらぬ方向へ脱線しっぱなし。番付ははたしてできるのか!?

## 二極化の進む銭湯業界

編集部 (以下、編) まずはここ一年の活動報告をお聞きしましょう。

下北沢 (以下、S) 去年に関東圏を制覇してからというもの、モチベーションが下がっちゃって。最近自宅から五キロ範囲内ぐらいのいい銭湯へ行って、帰りにどっか寄って一杯飲むという、きわめてフツウの銭湯生活なんですよ。

編 並みの人間になっちゃったじゃないですか。

森田 (以下、M) 僕は家庭の事情で一時、神奈川の藤沢市から埼玉の川越市に滞在しています。川越は一軒しかないのが残念です。だから埼玉と東京をつなぐ東武東上線に乗って池袋近くまで行ったりしています。

**編** 埼玉寄りの東京、板橋区あたりは多いんですか？  
**M** 東武東上線沿線は多いです。川越と東京をつなぐ西武線沿線は少ないですけど。

**編** 埼玉県に入ると少ない？  
**S** 坂戸はまだあるのかな。

**M** まだあります。でも「いまの釜が壊れたらもうやらない」と張り紙がしてあったかな。やる気はあるんだけど、設備が壊れたら仕方ない、という状況です。

**編** はやっているのはどんな銭湯でしょうか。  
**M** 早い時間からやっているところはお客さんも多い。

今日、ここ来る前に寄った銭湯も、仕事中の営業マンやら背中に絵が入っている人もいた。小さなスーパー銭湯ぐらいのいろんな風呂があったって露天もある。

**S** 設備投資しても続けられるかどうかは、後継者の問題が大きい。後継者が若くてあと二十年は働ける、となると銀行から資金を借りても働いて返せる。だから若い経営者だとやる気もあるよね。七十超えちゃうともういつ辞めようかなとなるのは仕方ない。そういうところに逆におもしろいところが多いんだけどね。

**編** ボイラーの交換は、やはり金額の負担が大きい？  
**S** 三百万ぐらいと聞いたことがある。

**M** 子供がいても継がせられないって人もいるね。  
**S** 昔の風呂屋は何軒も経営していたお金持ちが多いから、子供は医大に行かせたりね。教育にそれだけお金をかけてたらね、継ぐわけがない。

**編** 多いときは一日に千人も来たとか。  
**S** いまでは採算ラインが一日二百とか二百五十ぐらいだと聞いたことがあるんだけど、そんなの見たことがないよ。半分もないかなあ。それでも東京はまだ人が来るけれど、地方は壊滅的。しかも土地があるからスーパー銭湯ができる。

**M** 普通の銭湯とたいして値段も変わらないからね。  
**S** そりゃ銭湯はつぶれるよ。

**M** いまでも「板の間稼ぎに注意」と表示があるけど、泥棒も来ない。(＊ロッカーのカギをすり替えるなどして金品を奪う犯罪。古い銭湯用語)

**S** 郊外は車で移動するから、大きな駐車場があって、食事もできて、子供連れで行けるところのほうがありがたいだろうね。

**M** デザイナーズ銭湯のように、従来の銭湯のイメージを大きく変えた銭湯ははやってる。生活の場としての銭湯だけじゃなく、娯楽性もある銭湯ね。

もりた・ゆたか●1960年、東京生まれ。埼玉育ち。埼玉県川越市在住。小さいころは風呂屋のペンキ絵が描き換えられるのを心待ちにしていた。現在は路地裏散歩と居酒屋徘徊を趣味としており、産業遺産ならぬ生活遺産に興味を抱き、銭湯や古建物を見て巡っている。古墳好きでもある。

しもきたざわ・つかさ●若いころの極貧生活の唯一のレジャーとしての銭湯にハマリ、極貧を脱出しても毎日の銭湯生活を継続中。職業は会社員。営業マンとして全国を行脚。そのついでに銭湯へ。入った銭湯は3000軒以上、首都圏はすべて訪問済み。ホームページ「銭湯温泉サウナ王国」運営中。